

子ども発!「笑顔のモト!」

～小学校における多文化共生の実践～



三重大学教育学部・講師
林 朝子 Hayashi, Asako
【URL】 <http://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/1101.html>

津市立一身田小学校にて

◎多文化共生って何?

三重県には、県内総人口の約2.8%に当たる約5万人の外国人登録者がいます(平成20年末)。国籍はブラジルなどの南米諸国や中国などのアジア諸国など多岐にわたります。ルーツや文化が外国につながる人とお互いの文化を理解し共有しあって、一緒によりよい生活を目指していくことが多文化共生です。ここでは、学校での多文化共生について紹介します。

◎学校で起こっている問題は?

三重県内の学校(幼稚園や保育園も含めて)にも、多くの外国人の子どもたちが通っています。子どもにとって楽しいはずの学校も、彼らには辛い場所になってしまうことも多いのが現状です。日本の学校文化に馴染めない、日本語が分からず授業が全く理解できないなど、苦しんでいる子どもたちがたくさんいます。その苦しみを減らそうと、県や市町の自治体やボランティア団体などで様々な取り組み(子どもの母語がわかる指導員の派遣、放課後日本語教室など)が行われています。

図1 世界を結ぼう!



平成20年度の活動内容

- 1回 クラブの名前を決めました。
- 2回 ブラジルについて調べました。
- 3回 ブラジルの日本人学校に手紙を書きました。
- 4回 ブラジルの子どもたちに日本を紹介する手紙を書きました。
- 5回 2人のブラジル人児童と交流しました。
- 6回 担当のシルビア先生に色々質問しました。
- 7回 ブラジル人児童とダンスをしました。
- 8回 ブラジルのお菓子をつくりました。

手紙の返事も届き、みんな大喜びでした。

◎子どもが学び、広める

一身田小学校でも約20名の外国人の子どもたちが在籍し、多文化が共存する空間になっています。このような現状の中、平成20年4月、先生方の協力のもと、月1回の4～6年生を対象としたクラブ活動「世界を結ぼうクラブ」を立ち上げました(図1)。クラブ名は、外国人の友達の国や文化を「異質なものと捉えず、文化の一つとして理解するという気持ちから生まれました。自分の国の文化を知ることによって、外国の友達の文化の存在を理解できます。そして、お互いが異なる文化を認め合う必要がある

図2 子どもたちの変化

◎友達、家族への広がり

歌や踊りをクラブ以外の友達に披露したり、クラブで作ったお菓子を家族にあげたりしました。



◎子どもたち同士のつながり

ブラジル、日本の子どもといった区別をせずに一緒に遊ぶ機会が増えました。



◎国際学級への関心

国際学級を特別なところと思わず少しずつ日本の子どもたちも遊びに行くようになりました。

※国際学級：外国人の子どもたちが日本語を勉強するクラス

◎世界が広がる

クラブを通して違う世界を知ることができました。



今年の 新規取り組み

- 外国の友達にビデオレターを送ります。
- 遊びを通して、中国文化に触れ、中国語にも挑戦します。

のではないのでしょうか。そうすれば、文化の違いや言葉で困っている友達を助け合う学校空間ができるでしょう。

また子どもたちが、クラブを通して学んだことを、他の友達に伝え、それが学校全体にさらに家庭から地域へと広がることを期待しています。好奇心や感受性が豊かな子どもたちを今後も応援していきたいと思っています。